



ひらどだい

令和3年度 学校だより 7月号 横浜市立平戸台小学校学校長 藤巻 孝之



ふるさと

副校長 渡邊 智志

私の生まれ育ったのは東北の日本海側、いわゆる豪雪地帯で、多い時には3mもの雪にまち全体が覆われます。11月の中旬から降り始める雪は3月下旬まで根雪となって残ります。春には寒さを耐え忍んだ植物たちが、一斉に芽吹き花を咲かせます。横浜では順々に咲く梅、桃、桜がほぼ同時に花開く様子は、夢のように美しいものです。

夏は涼しいかと思いきや、フェーン現象で関東よりも暑くなる日が何度もあります。山形が大正時代に記録した40.8度は、平成になるまでの長年、日本の最高気温だったほどです。激しい寒暖差は、様々な動植物をすくすくと成長させます。子どもの頃の私は、虫や魚を取ったり、食べられる植物を摘んだりして遊んでいました。

今頃の季節、一番の遊びは魚取りです。釣りで仕留めるよりは、川に入って大きな岩の下に隠れている獲物を網で捕まえることが多かったです。たくさん魚がいる場所は、仲の良い友達にも内緒です。大勢で遊ぶときは、別の淵で深いところから浅瀬に魚を追い込んで、ぴちぴち跳ねているのを手で取っていました。

大学入学とともに上京し、そのまま住まいと職を求めた私は、人生のおよそ3分の2を横浜辺りで過ごしたことになります。それでも、子どもの頃に遊んだふるさとの山や森や川は私の記憶にしっかりと残っています。アケビを取った崖やニジマスが隠れている岩の場所は、今でも地図に描けるほど覚えています。その時遊んだ友達、捕まえた魚を焼くために焚火をしてくれた近所のおじさん、心配に眉をひそめながらも温かく帰りを迎え入れてくれた家族の顔が今でも脳裏を過ぎります。

平戸台の子どもたちが大人になり、ふるさとを思い出すとき、どんな光景が思い浮かぶのでしょうか。その中に、自然や、自分を取り巻く人々の思い出が残っていくことは間違いないかと思っています。大都市横浜の中であって、様々な生き物が見つけれ、時には蛇が出てきたことに驚かさされ、雨上がりの草と土の匂いがあふれるホタルの里。晴れた日にくっきりと見える富士山の姿。どちらも子どもたちのふるさとの思い出にしっかりと残っていくに違いありません。また、子どもたちの成長を願い、直接かかわってくださった方々と共に、子どもたちを取り巻く環境のためにご尽力いただく方々のことも、子どもたちのふるさとの一部として心に残っていくことは間違いないだろうと考えます。

平戸台小学校に副校長として赴任し3か月がたちました。様々な形で学校を支えてくださる方がたくさんいることに驚き、日々、感謝の気持ちを新たにしています。私も精一杯頑張っています。地域の皆様、保護者の皆様、今後ともよろしく願いいたします。